

2001年4月6日

## エルデネット・ホッtail事業 完了報告書

### 1. 事業目的

モンゴルの第3番目に大きい都市エルデネットで貧困のためストリートに暮らしている子どもを収容する施設を運営する。あたたかい住居および衣食の提供、医療ケアそして子どもたちの自立のための教育支援を行う。

### 2. 活動概要

#### 子どもたちの状況

2000年2月から2001年の1月にかけて25人の子どもたちが「テムジン」ホッtailで保護された。この間、4人の子どもたちの家庭環境が整ったことにより家族のもとに帰れるようになった。このうち3名の親が親戚の支援などにより自分の家を持つことが出来るようになったことから、家族とともに住むことができるようになり家に帰った。4人目は親がゴミの集積場に住んでいるが親とともに暮らしたいという希望が強く親のもとに戻った。なおPWJはゴミの集積場で補習授業コースを運営しており、その子はそちらのクラスに入って勉強している。他には1人の子どもがウランバートルにある他団体のホッtailに移籍したほか、4人の子どもはホッtailの生活になじめないなどの理由によりホッtailを自らの意思で去った。2月末現在16人の子どもたちがホッtailに暮らし、学校に通っている。

#### ホッtailでの教育

子どもたちはホッtailに滞在することにより、教育の機会を得ることができた。1人は職業訓練校の自動車整備工コースに通学している。9人は正規学校に通い、13人が正規学校に編入する前に読み書きや算数の初歩を学ぶ補習授業コースで勉強した。1名は通学前の年齢のため学校には通学していない。

またホッtailでは毎年ウランバートルの郊外ガチュールトで行うサマーキャンプに当団体のウランバートルホッtailの子どもたちとともに参加し、夏季休暇の約3ヶ月を過ごす。キャンプでは自然に触れ合う機会の少ないストリートチルドレンに家畜の世話やジャガイモを栽培するなどの機会を提供した。

### 3. 総括

当事業によって、ストリートチルドレンや路上生活を余儀なくされている家庭の子どもたちの生存や発展という子どもの人権を保護することができた。子どもたちに対し衣食住が確保されるだけでなく、医療ケア、そして教育を受ける機会を得ることができた。

エルデネットのホッタイルは自治体との共同運営であり、当団体とオルホン県知事室、エルデネット子どもセンター（モンゴル国立子どもセンターのエルデネットにおける支部）によって事業は実施されている。契約では、オルホン県はホッタイルの電気やゴミ収集費用、暖房費や飲料水、食料を提供するようになっている。しかし、政府の財政難から費用が支払われないということにしばしば直面した。このためホッタイルは食料不足や電気供給の停止、暖房がない状況になることもあったが、その際瀬田様の資金によって緊急に必要な支出が可能となり、また、子どもたちが困難な状況になることを防ぐことができた。

当事業はまた、現地の人材育成を目標の一つとしている。潤滑に事業を運営することを目的に、上記実施機関とで昨年2月にホッタイル・ボランティアの、また12月にはホッタイル・マネージャーの合同研修を実施した。これらの研修が要員の自立的な運営能力の養成に役立つものと思われる。

今後ですが、自己資金や一般に寄付を呼びかけることにより、ピースウィンズはエルデネット市のホッタイルを継続支援する予定です。